

花園大学 日本文学科 通信

第1号
通巻29号

二〇〇八(平成二十)年六月一日発行
編集・発行 花園大学日本文学科
〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町八一
TEL (〇七五) 八二一―一五二八―
振替 〇一〇五〇―一四三九九五

新学科体制がスタートしました

緑陰の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。
昨年度発行の「花園大学国文学会報 第二八号」でお知らせ申し上げましたが、平成二十年度四月より、新学科体制がスタートいたしました。

二〇〇年度より導入された国文学コース・現代文化コース・書道コースの三コース体制を、国文学・書道を学ぶ日本文学科と、現代文化・身体表現等を学ぶ創造表現学科の二学科に改編し、新たな発展をめざして船出いたしました。来年度には山陰線の高架の近くに創造表現学科の新校舎も完成し、二学科は物理的にも分離されて、それぞれの道を歩み出すこととなります。

日本文学科は、上代から近世までの古典文学と、近代・現代の文学、日本語学、書道について広く学び、自分で考える学生を育てることをめざしています。団塊の世代の退職に伴い、一時期よりも門戸の広がった教職を目指す学生も増えました。在学中に学力を身につけられるよ

新聞水緒

う、しっかりと指導・支援していきたいと思っております。

旧「国文学会会報」は、装いも新たに「日本文学科通信」として引き継ぐことになりましたが、現二回生が卒業を迎える年まで、旧国文学科は引き続き存続いたします。これからも学科の行事や在学生の動向など、折にふれ、皆様方にお伝えしていきたいと思っております。また日本文学科関連の講演会等行事につきましては、花園大学ホーム・ページにその都度掲載しお知らせする予定です。

どうぞ、これからも変わりなく、母校と在学生を温かい目で見守っていただきませう、また時にはご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

(学科主任)

ごあいさつ

真 神 仁 宏

昨年三月に四〇年余の教員生活に一旦ピリオドを打ちました。

そのスタートは昭和四三年女子高校の教諭に始まります。最初は夜も眠れない程の苦労が毎日続いたものでしたが、三年後に初めての卒業生を送り出した日から、教師の魔力に取りつかれました。担任として、三年に一度の卒業式には大泣きをし、大学へ移つてからは毎年複雑な涙で卒業生を送り出しました。

その間書道教育一筋と言うよりそれしか能がなかったと言うのが正直なところでした。それも教師半分、書作家半分の中途半端なものでした。もつと言えば家が本学と同じ臨濟宗の寺院であるため、その住職を兼ね、なおかつ父が始めた保育園の園長までしていたのですからいくら体があつても足りない毎日でした。しかしそんな激務を続けられた原動力は保育園の幼児から、高校、大学の教え子たちのいたことです。

先日も高校の教え子の長男と、大学の教え子が長い付き合いの末、無事結婚したのです。私にとつては実に奇縁と言わざるを得ません。教師をして人間が大好きになりました。

本年縁あつて本学にまいりましたがその人間愛で最後の教員生活を意義あるものとしたと思っております。

(客員教授)

古都がはぐくむ法螺話

杲 由美

少し前にドラマ化されたのでご存じの方も多いかと思うが、万城目学氏の「鹿男あをによし」は近來まれに見る壮大な法螺話である。断つておくがこれは褒め言葉であり、そして私はこの手の話が大好きである。読後にわかには奈良の鹿が見たくなり、今一つ乗り気でない家人を説き伏せ、飛火野の鹿寄せに出かけたのだが、案の定ドラマの影響で見物客が増え、鹿が怯えて例年よりも頭数が減ってしまったらしい。鹿には気の毒なことであったが、私を鹿へと駆り立てたのは己の物見高さゆえではなく（…と信じた）作者の筆力だと思ふ。人間の言葉を理解する鹿はどこかに本当に存在しているのではないかと信じてみたくなるのである。

さて、同じ作者の「鴨川ホルモー」「ホルモー六景」は、京都を舞台に五百代続くという由緒ある競技（ホルモー）が繰り広げられる、これまた輪をかけてつけたいな物語だが、「鹿男」も「ホルモー」も、共にその物語を支える土地の空気感はとても重要である。

JRで十分の隣県に育つたため、所謂（余所者）^{よそさん}の私にも京都は昔からそれなりに馴染みが深い土地なのだが、この街にはどこか人を食つたような所があると思う。それはよく言われる京都人の性格とは別の話で、上手く表現できないが、どれ程荒唐無稽なものでも何食わぬ顔で取めてしまうような、街そのものの懐の深さというか

得体の知れなさ、とても言えばよいのだろうか。「ホルモー」に現実との違和感がさほど感じられないのは、それが京都という土地だからこそという気がするのである。

登場人物は皆京都の大学に通う大学生なので、あり得ない事と分つてはいても、日々接する学生達が実はこっそりホルモーを：などと妄想するのは、結構楽しい。作中でホルモーの西の一面を担うのが、花園大学でない点は非常に残念だが、自分と同世代の、同じ街の物語として「ホルモー」を読む事ができる学生が少し羨ましい。己の学生時分への郷愁なのでしょうか？

（非常勤講師）

『異名分類抄（翻刻）』

花園大学入江昌喜研究会編

入江昌喜（一七二二—一八〇〇）が、天明三年二月に脱稿したもので、これを翻刻した。指導・曽根誠一先生、井上、近藤、大柿、金森、齋藤、谷口、大東、西山、畑の皆さんによるものである。残部僅少。

共同研究室の室員紹介

道行朋臣

裁松館六階の「日本文学科共同研究室」には、椿井里子（女）・秋山妙蓮（女）・道行朋臣（男）という室員がいます。現時点では、「日本文学科」「国文学科」「創造表現学科」共同研究室の仕事をしていきます。

木曜日担当の椿井氏は、年齢・経験共にリィダー。僕が学生の頃からお世話になっていました。現代文化コースでゼミ指導を担当し、「先生としての役割」を求めて来る学生が大半です。人柄のイメージは『北風と太陽』の太陽ですが、当然の努力をしない人にとっては「極寒の北風と灼熱の太陽」となります。充分ご注意ください。

火曜日担当の秋山氏は、最年少ですが落ち着いた人です。書道を教える人なので、三人の中ではダントツの美文字です。また、資料探しには丁寧に付き合ってくれます。但し、パソコンや機械に相当弱く（本人自覚）、それらに関する技術的質問は避けたい方がよいです。イメージは「上品なお嬢さん（そして食いしん坊）」です。

月&水&後期金曜日を担当する道行のイメージ（というより実態）は「よく喋る坊主頭」です。モットーは「臨機応変」、性格・言動が素直ではなく、一般にいう「変わり者」だと自覚しています。一応、日本語学専攻でした。

こんな三人に尋ねたい事があれば、とにかく来室して下さい。権限はありませんが、学問の内外を問わずお聴きします。但し、時間の内外は問いません（開室は十二〜十七時）。

卒業生からの便り

目下 奮闘中

大前 友・香

私は現在、枚方市の小学校で四年生を受け持っています。花園大学に在学していた時から、自宅近所の小学校でボランティアをしていたので、自然と小学校教員を志すようになりました。もちろん花園大学では小学校の教員免許は取得できないため、在学中に「小学校教員資格認定試験」を受けました。しかし不合格。卒業後に派遣社員をしながら通信課程で免許を取得しました。履修中に採用試験にも合格したので、晴れてこの春より教員をしています。

新学期が始まって一ヶ月ほどですが、毎日が試行・反省の繰り返しです。叱りすぎて後悔したり、授業をきちんと計画できないままつまらない授業をしてしまったりと失敗も多くあります。ですが、児童は可愛いですし、失敗しても次は失敗しなければ良いと信じて、奮闘する毎日です。私の赴任先は「新任では行きたくない」と評判になるほど、あまり環境のいい学校ではありません。噂のモンスターパーレンツ、青少年の非行、家庭環境の格差など、まさにニューズで話題の出来事も目の当たりにしました。それでも「楽しい」と思うことはあっても、「辞めたい」と思うことがなくらい、多忙で充実した生活を送っています。

(平成十九年度卒業生)

書を通して

池田 孝治

花園大学を卒業して、早いもので八年という月日が経ちました。卒業後、奈良教育大学での二年間の大学院生生活を経て、現在は、兵庫県公立高校で書道の教師として教壇に立っています。

「書を専門としない生徒にいかに関心を持たせるか」「書を通して何を伝えるか」、これが私の授業を行う上でのテーマです。毎回、あの手この手を考えて授業に臨みます。教材研究や授業の準備など、種々忙殺される日々ながら、日ごと成長する生徒達とともに充実した毎日をお過ごししています。

慌ただしい生活の一方で、大学時代、ともに書について学び、語らい、没頭した書道コースの仲間との交友は、卒業後も相変わらず続いています。折にふれて集い、酒を酌み交わすなどしますが、そこは、私にとって正に癒しの空間です。書を通して巡り逢った、仲間との繋がりを大切にしていきたいものです。

現今、書を取りまく状況は厳しいものがありますが、書を通して「自分に何ができるか」「何かやらなきゃ」という思いを常に持ちつつ、これからも書に携っていききたいと思えます。

最後に……

われわれの書道コースをご指導くださいました谷口東峰(良二)先生が、二〇〇七年六月、お亡くなりになりました。ここに改めて哀悼の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。台掌

(二〇〇〇年度卒)

花園大学文学部日本文学科関連

09年度入学試験日

自己推薦 A 方式

試験日 08年10月5日(日)

試験場 本学(京都)

自己推薦 B 方式

試験日 08年11月8日(土)AM

試験場 本学、東京、岡山、金沢、福岡

試験日 08年11月9日(日)AM

試験場 本学、静岡、名古屋、福井、広島

自己推薦 L 方式

試験日 08年11月8日PM

試験場 本学、東京、岡山、金沢、福岡

試験日 08年11月9日(日)PM

試験場 本学、静岡、名古屋、福井、広島

書道特技

試験日 08年11月9日(日)

試験場 本学(京都)

自己推薦 C 方式

試験日 08年12月7日(日)

試験場 本学(京都)

一般入学試験前期日程

試験日 09年2月4日(水)

試験場 本学、東京、岡山、金沢、福岡

試験日 09年2月5日(木)

試験場 本学、静岡、名古屋、福井、広島

一般入学試験後期日程

試験日 09年3月4日(水)

試験場 本学(京都)

センター試験利用方式

試験日 09年1月17日(土)～18日(日)

他に「社会人入試、留学生入試、編入学試験、
社会人編入学試験(学士入学試験)」

*詳細は大学入試課にお問い合わせください。

◇ミステリー講座

ミステリーの魅力

『綾辻行人&有栖川有栖の

ミステリー・ジョッキー公開ライブ!』

開催日時

平成二十年六月二日(土)

十四時開場

入場無料、申込不要

無聖館五階ホール

講師

綾辻行人氏

有栖川有栖氏

司会

佳多山大地氏

◇平成二十年度

花園大学日本文学会

公開講演会

日時 平成二十年七月六日(日)

午後二時から四時

会場 花園大学自適館三階

講演 遠藤邦基先生

(奈良女子大学名誉教授)

「こぼ遊びと国語史

——異文成立の場合——」

入場無料、申込不要

◇『花園大学国文学論究』第三十五号

二〇〇七年十二月刊行

(販売価格五百円)

・小沢蘆庵の家集収集と入江昌喜(三)

——『散木葉歌集』の検討(上)——

曾根誠一

・『寝屋長者鉢記』について

大前友香

・『焼き回し』

——成立とその要因についての考察——

森本麻文

・『異名分類抄』注文の「異名語彙」索引

金森みよ

・『花園大学国文学論究』掲載論文題目一覧

(創刊号～第三十五号)

・映画に於ける未完成の問題

——テリリー・ギリアムと『ロスト・イン・

ラ・マンチャ』よりの一試論——

福原正行

・受贈図書目録(平成十八・二〇〇同十九・九)